

第1 魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方（P1～3）

1 高等学校教育を取り巻く現状

- 人口減少やグローバル化の進展等、社会の急速な変化
- 生徒の能力や進路志望等の一層の多様化
- 様々な事情を抱えた生徒が在籍し、高校の実態も多様化
- 「多様性への対応」と「共通性の確保」が必要

2 「魅力ある高等学校づくり」の視点

- 本県の実情等を踏まえつつ、新たな視点を取り入れた本県ならではの高校教育改革
- 生徒の夢や志の実現を県全体が一体となって支援できる環境づくり
- 環境づくりに当たっては、教職員がゆとりを持って、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう配慮が必要

3 高等学校教育の方向性

（1）これからの時代に求められる力の育成

- 生きる力や主体性、地域・郷土を愛する心等
- 夢や志に応じた力
- 柔軟性や創造性等、急激に変化する社会において求められる力

（2）これからの時代に求められる人財の育成

- 青森県や地域の発展に貢献できる人財
- イノベーションを創出する志や創造性を持った社会を牽引できる人財
- 職業の多様化に対応できる人財 等

（3）高等学校に求められること

- 全ての生徒が安心して学べる環境づくり
- 生徒のウェルビーイングの実現
- 教育活動全体の更なる魅力化
- カリキュラム・マネジメントの適切な実施
- STEAM教育等の充実
- 教育制度等の効果的な活用

第2 学校・学科の充実の方向性（P4～14）

1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（1）教育活動の更なる充実

① 各校の特色を生かした取組の推進

- 各校の教育活動の更なる充実と魅力の情報発信
- 本県ならではの取組の推進
- 全国からの生徒募集の新たな導入校の検討

② ICTの活用による教育活動の充実

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた対面指導と遠隔・オンライン教育の最適な組み合わせ
- 教員の資質向上や専門スタッフの配置の充実
- 教科・科目の特性を考慮した上で、遠隔配信による多様な教科・科目を設定

③ 特別な支援を必要とする生徒への教育の充実

- ICTの活用等による個に応じた指導の充実
- 教員の資質向上や専門スタッフの配置の充実
- 特別支援学校の分教室の設置等による環境整備
- 「他校通級」や「巡回通級」の実施等、通級による指導の充実

（2）多様な主体との連携・協働

① 高等学校間・学科間の連携

- 各校や各学科の実情に応じた効果的な方法での連携の推進
- これまでの枠組みにとらわれない連携の推進

② 異なる校種間の連携

- 小・中学校や大学等との連携の充実

③ 地域や関係機関等との連携

- 地域や関係機関等との連携・協働体制の構築・強化
- 地域等について理解を深める学習等の実施
- 連携を担うコーディネーターの配置と、養成・研修等を通じたコーディネート機能の充実

2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり

（1）全日制課程

① 普通科等

- （普通科、理数科、グローバル探究科、スポーツ科学科、表現科）
- 教育資源や強みを生かした特色化・魅力化
 - 地域や大学等との連携による教育活動の充実

② 職業教育を主とする専門学科

- （農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科）
- 基礎的・基本的な学びを土台としつつ、各産業を取り巻く環境の変化に対応した学びの推進
 - 地域や関係機関との連携による教育活動の充実

③ 総合学科

- 外部人材等の積極的な活用による多様な分野の学びの提供
- 社会の変化や生徒のニーズに対応した教育課程の編成

（2）定時制課程・通信制課程

➢ 多様な学びの提供

- 生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実
- 定時制課程においては、募集人員を含めた午前部、午後部、夜間部それぞれの在り方を検討
- 通信制課程においては、スクーリングの負担を考慮した環境の整備、後期入学や転入学・編入学に対応した教育課程の編成
- 従来の全日制・定時制・通信制課程の枠組みにとらわれないフレキシブルな学びの提供等、課程の在り方の検討

3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度

（1）中高一貫教育

- 既導入校における教育活動の充実
- 新たな設置等については、周辺の市町村立中学校への影響等を総合的に勘案して判断

（2）全日制普通科単位制

- 既導入校における教育活動の充実
- 各校・各学科の役割や特長に応じて普通科以外も含めた新たな導入の検討

（3）総合選択制

- 既導入校における教育活動の充実
- 新たな導入については、これまでの取組状況等を踏まえ検討

（4）コミュニティ・スクール

- 実施時期や募集方法等、制度の在り方を検討

（5）入学者選抜制度

- 実施時期や募集方法等、制度の在り方を検討

第3 学校配置の方向性（P15～19）

1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

（1）高等学校教育を受ける機会の確保

- 全ての生徒が夢や志の実現に向けて高校を選択できる環境づくり
- 地域と一体となった人財育成が進められてきたことを踏まえた学校配置
- 地理的要因等により高校への進学に支障が生じないように通学環境への配慮

（2）充実した教育環境の整備

- 高校に求められる教育活動を提供できる教育環境の整備
- 様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへの対応
- 高校間連携や地域等との連携の更なる推進

2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

（1）全日制課程

① 学校配置の考え方

- 6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移や産業動向、中学生のニーズ、地域の実情等を考慮し、生徒の進路志望等に応じた様々な役割を担う高校を配置
- 各校がそれぞれの役割に応じてより特色ある教育活動を実践できる教育環境を提供

② 学校規模

- 各地区に一定規模を有する高校を配置しながら、きめ細かな指導が受けられ、生徒の通学環境に配慮した小規模校も配置するなど、学校規模も特色の一つと捉え、多様な高校を配置

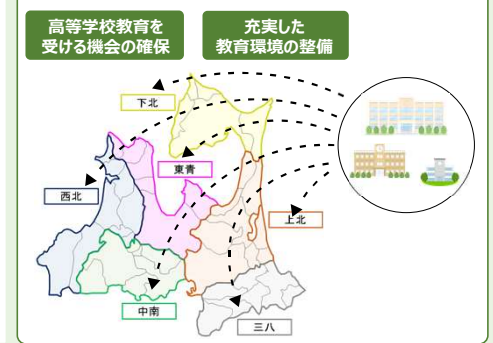
③ 小規模校の配置

- 小規模校の特長を生かした教育活動の推進、多様な主体との連携・協働
- 配信センターからの遠隔授業の実施
- 地域校制度について、配置基準や募集停止等の基準を含めた在り方を検討した上で、学校と地域が一体となった教育活動を推進
- 募集停止をする場合の対応として、通学が困難となる生徒に対する通学支援等を検討

（2）定時制課程・通信制課程

- 生徒が自らの特性やペースに応じて主体的に学習内容や学び方を選択できるよう、現状の配置を継続
- 全日制課程と合わせた学校配置を含め、拡充も検討

【各地区の学校配置イメージ】



3 学校配置と合わせて検討すべき事項

（1）再編の方法等

- 新たな学びの創出等を目指した学科の統合や、異なる学科の高校の統合を検討
- 統合以外の方策も検討（キャンパス制の導入、中学校等との併設等）

（2）学級編制

- 各校の特色を踏まえた少人数学級編制の拡充等の検討
- 各校・各学科の特長に応じて、少人数学級編制や単位制の実施を検討

（3）通学手段の確保・通学支援

- 県と市町村や交通事業者等とが連携し、公共交通機関のダイヤの改正、スクールバスの運行や寮の整備、通学費や下宿代等の補助等の対応を検討

第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり（P20）

- 市町村やPTA関係者等と意見交換する場を設定し、具体的な学校配置等について意見を伺いながら、実施計画を策定

- 実施計画の策定過程において、県民へ説明し、意見を伺う場の設定やパブリック・コメントの実施等、様々な機会を捉えて地域等の意見を聴取

- 統合を行う場合には、統合の対象となる高校の関係者等により、新たな統合校の教育活動の充実に向けた検討の実施